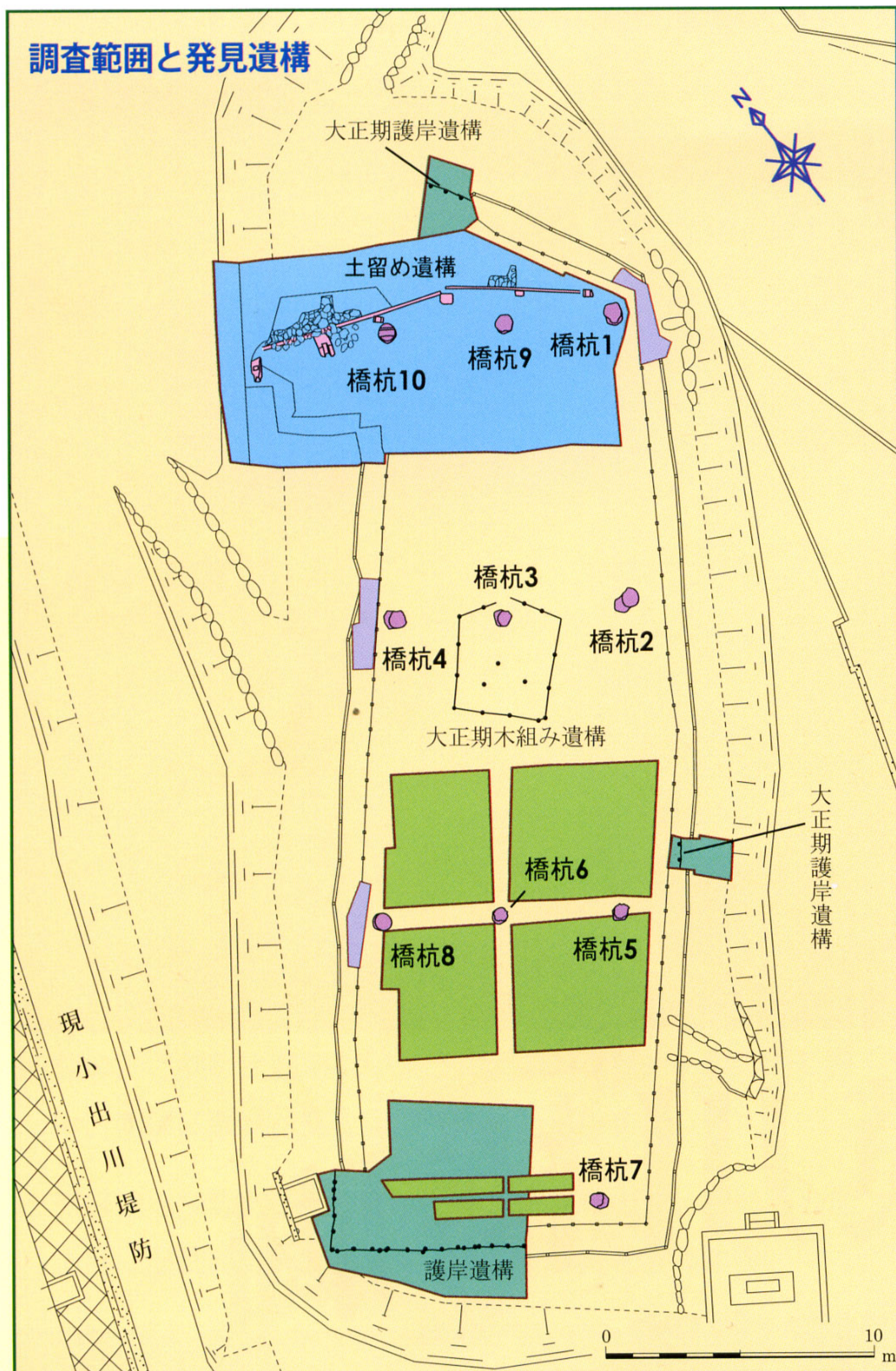


# 明らかになった橋脚



橋杭No.5の下部状況を見る



橋杭No.5の先端 杭のように尖っています

## 太い木材を加工しました

橋脚(橋杭)はどれもヒノキの太い木を加工して作られています。直径は48～69cm、残っていた長さで確認できたのは3m65cmでしたが、橋として使われていた時には上にもっとの延びていたはずで、下部は途中から細くなり、手斧という工具で削った跡が残っていました。また、橋杭No.9と10の上部には四角い加工痕がありました。これは柱の途中に開けられた穴(ほぞ穴)で、梁あるいは貫を通して橋杭をつないでいたものと思われる。

調査によって橋杭は10本確認されました。上図でみられるように、横方向に3本、縦方向に4本と規則的に配置されています。

橋は、図の上(北東)から下(南西)に架けられたと想定されます。



橋杭No.10の上部加工痕